

# どうなっていくの？ 私たちのこれからの子育て ～子ども・子育て支援新制度を学ぶ～

自分も周りもとられすぎていませんか？

子育て中の親を惑わす

## 神話 幻想



### ■3歳児神話

「3つ子の魂百まで」とは小さい頃の性格・性質は、年をとっても変わらないということ。だからといって、3歳までに英才教育という話ではないですし、子どもが3歳になるまでは母親が常に一緒にいなければならないということではないのです。

### ■母性愛神話

女性は誰でも「母性」があふれているものであり、出産や母乳を与えるのは女性にしかできないことなので、育児の喜びを女性が感じるのは当たり前と思われていること。しかし「母性神話」に女性が縛られ、完璧な母親を演じることに疲れ、育児ノイローゼになってしまう母親が多いのも事実です。女性も男性も、子どもはかわいいけれど、ぐずったり泣き止まなかったり、がんばって段取りしたのに予定通りにならなかったりしたときには、正直かわいいとは思えなくなることもあります。「女性ならそんな風に思うのはおかしい」などということはありません。辛い時には辛いと言える家族や専門家が身近にいると良いですね。

### ■おふくろの味幻想

ご飯は家庭で作ったものを食べさせないと子どもが問題行動を起こすようになるというような幻想があります。また、大人になってもおふくろの味が忘れられず、結婚後、妻が夫の母親の味付けにしていることが当たり前だと思っている人もいます。それが夫婦げんかの原因になっていることもよく耳にします。「子育ての未来を語る日」でも出てきた話で、外国では「ベビーシッター」を利用するのが当たり前。タイでは親が夕食を作る習慣がなく、キッチンがない家もあるそうです。それでも子どもはちゃんと成長しているようです。

### ■イクメン幻想

P2にも出てきた「産後クライシス」に通じるのですが、妻が自分の夫に対して強く「イクメン」を求めすぎてしまうことで、現実とのギャップが生まれ、幻滅すること。家事育児にできるだけ関わりたいと思っても、夫にも得意不得意があるので、不得意な部分を強制的にやってもらいよりも、得意な部分でかかわってもらう方がスムーズにいきます。「褒めて伸ばす」のは、夫も子どもも同じです。

子育て世代は「〇〇しなければならない」と思い込んでしまうことがたくさんあります。でも、子どもも家族もいろいろなのだからこそ、子育てだって、いろいろあっていいんですよ。時には経験者の声に耳を傾けつつ、でも、「自分たち家族がどうありたいか」を大切にしていればよいのです。

【コラム】  
子育て  
あるある

## 夜泣きする赤ちゃんがいても夫婦同室で寝ていますか？

「赤ちゃんは、泣かなければいいんだけど」なんていう声を時々耳にします。

特に夜泣きをする時には、こちらは眠いやら、赤ちゃんは泣き止まないやら、冬の場合は寒いやらと、親も大変です。さらに専業主婦や育休中のママの場合は、昼間仕事で疲れているパパに気を遣って、赤ちゃんともママは同室でも、パパは別室ですやすやす眠っていることが多いようです。

Sさんの場合は、普段あまり夜泣きで手こずらない赤ちゃんがその日は2時間以上泣き止まず、アパート暮らしで近所迷惑も気になりつつも必死でママがあや

し続けたそうです。それでも2時間半以上たっても隣で「われ関せず」で寝ているご主人に、「ちょっと、いい加減に手伝ってよ」と言い放ち、赤ちゃんを渡して布団をかぶって知らん顔。その翌日からは、ご主人は別室に自主避難となったそうです。

夜泣きは母親にとって本当につらいです。「赤ちゃんが昼間たくさん刺激を受けた証拠だから、成長している証拠だよ」となぐさめられても、その時にはそう思う余裕がないことが多いです。皆さんの家庭では、うれしい時だけでなく、こんなつらい時も共有できていますか？



NPO法人 はままつ子育てネットワーク ぴっぴ

電話：053-457-3418 FAX：053-457-2901

E-MAIL：pipipi@hamamatsu-pippi.net

ぴっぴとつながろう！



### ◆ホームページ

ぴっぴ

- 子育て情報サイト  
<http://www.hamamatsu-pippi.net/>
- ぴっぴ法人サイト  
<http://npo.hamamatsu-pippi.net/>
- ココ研サイト  
<http://kokoken.hamamatsu-pippi.net>

このニュースレターは、「静岡県子育て支援実践交流会事業」により作成しています。



去る1月26日(日)に、『ココ研勉強会』を兼ねて『子育ての未来を語る日』を行いました。

～第1部～

### ●講演会「安藤パパに聞く。これからの子育て」

NPO法人ファザーリング・ジャパンファウンダー安藤パパこと安藤哲也氏

### ●対談安藤パパ×浜松市長「これからのワークライフバランス」

～第2部～

### ●座談会「どうなっていくの？これからの子育て」

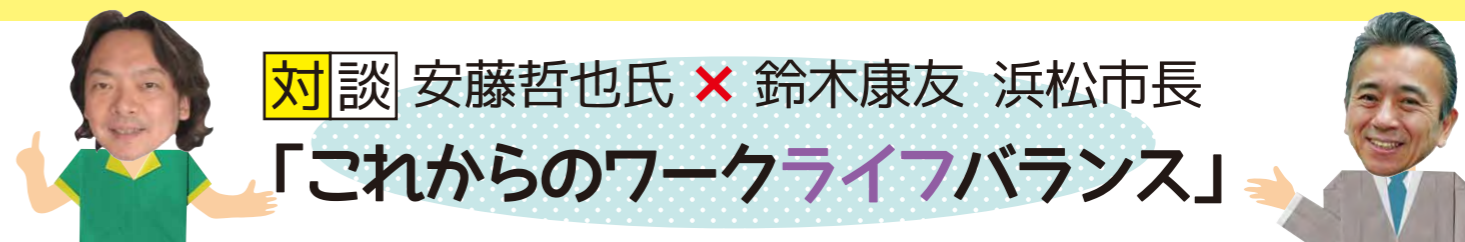
静岡県子ども未来局長 萩原綾子氏、NPO法人全国ひろば連絡協議会理事 松田妙子氏、安藤哲也氏、NPO法人はままつ子育てネットワーク ぴっぴ理事長 原田博子氏

という構成で、第3回勉強会を兼ねました。



▲安藤パパの話には子育ての名言がいっぱい!

▼それぞれの立場から子育ての未来を語ります。



安藤パパと康友市長に、男性の視点で「ワークライフバランス」について語っていただきました。

康友市長のお友だちの作家 鈴木光司さんの話題も出てきたところもありましたが、安藤パパからは、「元祖イクメン」として、もっとPRしたらどうかという提案もありました。

**市** ワークライフバランスという、女性に限定されるところがあるね。

**安** 僕的にはそれはちょっと……。広島県知事は、育休をとったこともあり、もうすぐ子どもが生まれる職員とランチ会を行っている。そこで、育休取らないかなど、職員と直接話をする。トップが言うと、中間管理職もダメ出しができない。

**市** それは良い。自治体の悪いところは、トップが変わるとガラッと変わる。継続性を持たせないと。

**安** 鈴木市長がいる間に改革してほしいですね。

**市** 僕は地域の居場所づくりが必要だと考えている。昔は恵まれていたが、地域での子どもの受け入れが希薄になってきている。

**安** 市長は何かやっていますか？

**市** 浜松まつりが地域のコミュニティを受け入れる場となっている。僕はまつりにも積極的に入り込み、子どもたちとも話すのが楽しい。

**安** 地域に入り込み消防団をやり過ぎて離婚する人もいる。若い人は家庭や仕事だけでなく、地域とのバランスも大切。

**市** 個々の能力にもよるが、働き方を工夫すればよい。

**安** 子育てパパは仕事ができると、ファザーリングジャパンでも言っている。行政では手の届かない細かいところもありますよね。

**市** 民間が先頭切ってやってくると、それに対する支援は得意。民が半歩前に行くことを、行政がどう支えるかということはずごくやりやすい。

**安** これからも子育て支援のNPOたくさんありますが、応援してくれますか？

**市** 応援する。今後は子育てだけでなく、介護も大事。このためには地域力が必要。

**安** イクメンを育てるのも、来るべき介護の備えになります。

**市** どうしても数的な目標に目が行くが、男性をどう社会参画させるかがこれからは大事。

**安** 空気を換えるのはリーダーからが大切。リーダーからの強くて温かいメッセージを送ってください。



# 安藤パパの名言集



**安藤哲也(プロフィール)**  
1962年生まれ、15歳を前に3児の父親、2006年  
会社員の傍ら、父親の子育て支援・自立支援事業を  
展開するNPO法人ファザーリング・ジャパン(FJ)  
を立ち上げ、現在は副代表。地域では、保育園、学童ク  
ラブの父会長、小学校のPTA会長を務めるほか、  
2003年より、NPO法人「絵本プロジェクト」のメンバー  
として、全国の図書館・保育園・自治体等に、NPO  
の出張絵本おはなし会を開催中。現在は、NPO法人  
タイガーマスク基金の代表と厚生労働省イクメンプ  
ロジェクト推進チーム座長などを務める。

安藤パパの講演会では、これまでの体験談や、ファザーリング・ジャパンのメンバーの話など、安藤パパ自身の経験を通したお話を伺えました。その中には、現在子育てでひりひりしている思いを抱えている人や、そういう人を見守る支援者にとって、心に刺さる言葉がたくさんありました。

## そこで、OSを入れ替えた

10年くらい前に努めていた時には、毎日忙しくて月曜から金曜日までは毎日タクシーで帰宅(電車がなくなってしまうので)していた安藤パパ。ある日突然、朝起きると、0歳児が泣いていることに気づく。テーブルの上には置手紙。妻は完全母乳の0歳児を置いて出て行ってしまいました。

0歳児が泣いても、言葉が通じないため、何で泣いているのかすらわからず、うろたえる安藤パパ。仕事なら大概は日本語が通じるのに、「こんな大変なことを、ママたちは平日ひとりで行っているのか」と気づいたそうです。そして夕方帰ってきた妻からの一言は、「仕事している方が全然楽なんだからね!」という言葉でした。

これまでに、保育園に子どもを送っていくなど「他のパパに比べたら、育児をやっている」と思っていたのに、このままお互いを認め合わずにいるとすれ違いが生じていくだけで、いつか妻に離縁されると思ったそうです。

そこで、パソコンなどがバージョンアップするように、自分のOSを入れ替え、今抱えている家族の問題をどうすれば解決できるかを考え、今につながるそうです。

皆さんのOSは、バージョンアップをしていますか?

## 乳幼児の時にかかわっていた。だから話せた。

娘が中2で家出をした。新幹線を出張先に向かう途中、「あの人(母)と住むのはもう嫌だ」という娘からのメールが届き、急きょ戻り、娘とファミレスで待ち合わせして話をしたそうです。

思春期の娘の話をじっくり聞き、夜には妻の話を午前3時半まで聞き、妻のフォローも忘れずしたとか。

これは誰もができることではなく、幼い頃から毎日絵本を2冊ずつ読み聞かせをするなど、乳幼児期から子どもにかかわり、子どものために時間をかけていた安藤パパだからできること。子どもはどんなにかわいがっても、時期が来ればひざの中に入ってくれなくなり、その次には一緒にお風呂も入ってくれなくなります。思春期ともなればどんどん親子の会話が減っていく頃ですが、乳幼児期からのかわりがあればこそ、いざという時に向き合えて話ができる。

安藤パパ曰く、「乳幼児期に子どもをかわいがっていればそれなりのリターンがあるが、やらなければ悪い意味でのリターンがある」



## ナナメの親になる

安藤パパは、自分の子どもとどこかに遊びに行く時に、子どもの友だちも連れて行くことがよくあるそうです。ひとり親家庭の子どもを誘い、子どもたちが行儀が悪い時などは、自分の子どもも、子どもの友だちも分け隔てなく叱るそうです。子どもたちは、正しいことを教えてくれる大人が好き。自分に向き合ってくれる大人が好き。本当の親ではないけれど、こうした「ナナメの親」になることで、非行の抑止力にもなっているとか。

「地域で子育てする」とは、こういうことで、特に意識してやるうとしないとできないこと。皆さんの近くに住んでいる子どもの顔と名前、知っていますか?

## 玄関にあるゴミ袋をゴミ捨て場に捨てるだけは、ゴミの移動という

父親がやっている家事の第1位は「ゴミ出し」です。では、「ゴミ出し」とは、どういふものでしょうか?多くは、すでに袋にまとめられているゴミを、ゴミ集積場に持っていくことを「ゴミ出し」といっています。でも、「家中のゴミを集めるところから、ゴミ集積場に持っていくところまでやるのが本当のゴミ出し」であり、前者はただの「ゴミの移動」だと、ファザーリング・ジャパンでは言っているそうです。「本当のゴミ出し」ができていますか?

## 産後の夫の協力によって、老後の夫婦関係が決まる

出産後、夫婦の愛情が急激に冷めてしまい、いずれ離婚の原因にもなるという「産後クライシス」。妊娠中は、子どもが生まれてからの夢や希望がいっぱいな時期です。それに比べ、出産後の女性はホルモンのバランスが崩れたり、子どもの夜泣きで眠れなかったり、その上夫の「ごはんまだ?」なんていう言葉があたりすれば、「この恨みは一生忘れない」という気持ちにつながるようです。出産後のこの時期、男性がどれだけ育児や家事などにかかわりを持ち、妻への気遣いができるかが、老後の介護にも影響を及ぼし、熟年離婚につながるという調査もあるそうです。

## 男性が働き方を変えると、子どもを産み育てやすい社会になる

男性が働き方を変えることで女性の離職率が下がったそうです。男性が残業しないと、夜の会議がなくなり、男女とも定時に帰れるようになる。また、会社のトップが中心となってそれを促していくと、中間管理職(これまで育児経験がなく仕事中心で生きてきた世代)も文句を言えない。「イクメン」「ワーキングマザー」という言葉は、課題があるからあるもの。いずれこの言葉がなくなると良いと安藤パパは言います。

## 『子育ての未来』をロックオンできたか!?



まずは登壇者  
それぞれから現状の報告を  
してもらいました。

## 社会のみんなで子育てを支える 仕組みを作ることが大事



静岡県健康福祉部 こども未来局長 萩原 綾子 氏

女性の労働機会・社会参画につながるためには、女性が働くとなると、家事育児もやらなければならないということでは、女性の自立の妨げになる。

女性や子育てをしている当事者の意識・実態を直視し、少子化の原因を正確に把握し、実効性のある施策を打ち立て、時代の危機をチャンスに転じる機会である。新しい社会の在り方を模索し構築する可能性を秘めている時代に突入した。

## どんな親でも 自分で選べる社会に



NPO法人はままつ子育てネットワークびっぴ 原田 博子 氏

待機児童解消で有名になった横浜市で行っている「コンシェルジュ」は、実はびっぴは2007年に浜松市に「ハローワーク浜松マザーズサロン」ができた時から行っている。

それ以外にもいろいろな協働ということで、浜松市・企業・病院・学校などと一緒に事業を行ってきている。保育園や学童保育などは、「とにかく入れさえすればよい」ということで、親が選べない状況になっている。どんな親でも、子育てのサービスなどを自分で選べる社会になれば良いと思っている。

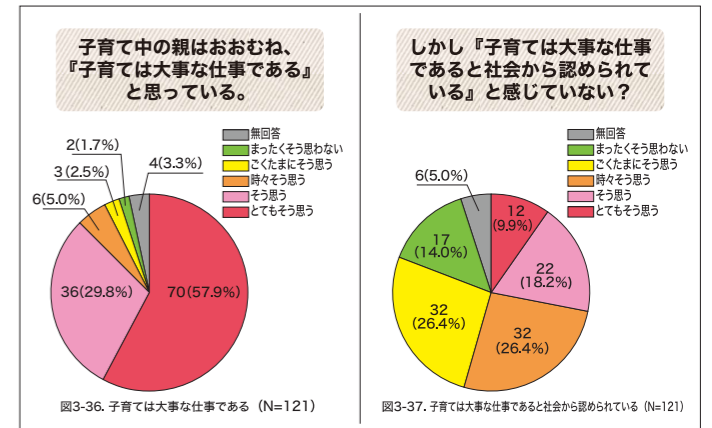


## このギャップを解消したい!

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 理事 松田 妙子 氏

東京都の調査では、子育て中の親(在宅2歳児以下)の9割は「おおむね子育ては大事な仕事だと思っている」のにもかかわらず、約半数は、「社会では子育てがリスペクトされていないと感じる」だった。

東京都次世代育成支援後期計画評価に係る調査より



また、都内では保育園ができるという、反対運動が起こる(うるさいから)。また、西東京では、噴水が止まった(噴水があがっていると、子どもが集まるので嫌がられる)。足立区の公園では、ティーンエイジャーが集まることを嫌がられ、モスキート音(若者しか聞こえない周波数の音)を流して、若者を排除している場所がある。

子ども同士がけんかになろうとも、大人が子どもの様子を見守る空気や異年齢の子どもが集まる場が必要。

## これからの子育て ~ それぞれの立場から ~



### ■子どもの居場所とワークライフバランス

**萩** 親が働き続けるための支援としては、学童保育の延長が必要となってくる。

**安** 夜間サービスを延長することは、医師や自衛隊などの時間に関係なく働く人のための最低限の器として必要。しかし、保育時間を長くすることは、子どもの利益となるようにワークライフバランスとの関係性を意識していかないとけない。

**松** 子ども自身が送迎なしでも行ける場所が地域に必要。親が帰ってくるまで、夕食を一緒に作りながら待ってられる場所を作ろうと「おせっかいクラブ」を立ち上げた。

**安** これからは子育てと介護を合わせて問題解決する時代となる。制度だけでなく、会社の風土をトップが変えさせること。また、民間の良識的なところは、公的に応援してほしい。

### ■最後に

**原** 女性が言うとうひいてしまうことでも、男性がいうと、ソフトに感じて受け入れられる。安藤パパが来てよかった。

**松** 子育て支援は親に対してだけれど、親は子どもの最大の環境でもある。親を支援することで、子どもにめぐっていく。子どもが夢中になれるような時間(カイロス)が子どもには必要。

**萩** 子育て支援は、「女性の人生支援」「家族支援」「苦楽を分かち合うもの」であってほしい。子育ては尊い仕事として、社会で評価できる仕組みを作っていきたい。

**安** 子育ては局面ごとによって変わっていく。その時々でのかかわりとなるので、今の子育てに向き合うことが必要。ご飯を食べるための「ライスワーク」と、定年後、イクジイとなるなど、職場で培ったネットワークや能力を地域で活かす「ライフワーク」が大事。